



平成25年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年5月10日

上場会社名 ジャパン・フード&リカー・アライアンス株式会社 上場取引所 大  
 コード番号 2538 URL http://www.j-fla.com  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小林 武司  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 財務計画部長 (氏名) 杉 義継 (TEL) 06-6444-5293  
 四半期報告書提出予定日 平成25年5月10日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年9月期第2四半期の連結業績(平成24年10月1日～平成25年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年9月期第2四半期	13,361	△2.1	324	△33.7	△147	—	△266	—
24年9月期第2四半期	13,652	0.5	488	△20.8	319	△27.8	19	△91.6

(注) 包括利益 25年9月期第2四半期 △219百万円(—%) 24年9月期第2四半期 193百万円(△36.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年9月期第2四半期	△4.11	—
24年9月期第2四半期	0.30	—

(注) 当社は平成25年9月期より会計方針の変更を行ったため、平成24年9月期については当該会計方針の変更を反映した遡及適用後の数値を記載しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年9月期第2四半期	28,682	7,660	26.7
24年9月期	29,239	7,879	26.9

(参考) 自己資本 25年9月期第2四半期 7,660百万円 24年9月期 7,879百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年9月期	—	—	—	0.00	0.00
25年9月期	—	—	—	—	—
25年9月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成25年9月期の期末配当予想額については、未定であります。

3. 平成25年9月期の連結業績予想(平成24年10月1日～平成25年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	26,000	△1.2	500	△13.6	△170	—	△360	—	△5.56

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

当社は平成25年9月期より会計方針の変更を行ったため、当該会計方針の変更を反映した遡及適用後の対前期増減率を記載しております。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 有
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	25年9月期2Q	68,004,520株	24年9月期	68,004,520株
② 期末自己株式数	25年9月期2Q	3,245,826株	24年9月期	3,244,659株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	25年9月期2Q	64,759,437株	24年9月期2Q	64,760,275株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外ですが、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

・配当については、業績に応じた適正な利益還元を行うことを基本方針とし、企業体質の一層の強化及び将来の事業展開に備えるための内部留保の充実等を勘案して決定しております。現時点においては事業環境に不透明な要因が多いことから配当予想額を未定としておりますが、開示が可能となった時点で速やかに開示いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	5
3. 四半期連結財務諸表 .....	6
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	8
四半期連結損益計算書 .....	8
四半期連結包括利益計算書 .....	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	10
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	12
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、昨年12月に発足した新政権による経済対策への期待から円安と株価の回復基調が見られるものの、世界に目を向けると欧州債務問題や中国をはじめとする新興国の減速等もあり、先行きは不透明な状況で推移しました。

このような状況の中、当社グループは、既存顧客の深耕、新規顧客・チャネルの開拓、積極的な新商品の導入等を図り、収益力の向上に努めました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は13,361百万円(前年同期比2.1%減)、営業利益は324百万円(前年同期比33.7%減)、貸倒引当金繰入額を計上したこと等により経常損失は147百万円(前年同期は319百万円の経常利益)、四半期純損失は266百万円(前年同期は19百万円の四半期純利益)となりました。

また、「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示(会計方針の変更)」に記載のとおり、従来、販売費及び一般管理費に計上していた販売促進費の一部について、第1四半期連結会計期間より、売上高から控除する方法(純額表示)に変更いたしました。なお、当該会計方針の変更は遡及適用され、前年同期増減率については遡及適用後の数値にて記載しております。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

#### (食品類・酒類事業)

醤油につきましては、家庭用は主要ルートでの販売拡大を積極的に進め、また新商品で「天然醸造蔵仕込み醤油 銀座久兵衛150ml」「マルキン超特選減塩しょうゆ500ml/1L」を発売しましたが、主力商品が苦戦したこと等により売上が減少しました。業務用は、外食市場の低迷や大手取引先の内製化への移行等の影響により売上が減少しました。

つゆ・たれ類につきましては、家庭用商品の「マルキン極淡白だし1L」「マルキン醬の郷 小豆島からすきやきのたれ500ml」、「盛田すき焼きわりした500ml」、「イチミツボシ味付けぼん酢すだち風味360ml」「イチミツボシごまドレッシングゆず果汁入り500ml」等の売上が増加し、また昨年11月発売の「マルキン旨味つゆ1L」が好調に推移しました。業務用は、外食市場の低迷等の影響により売上が減少しました。

その他調味料につきましては、有機関連の差別化商品である「盛田有機純米料理酒500ml」「盛田有機みりんタイプ500ml」が堅調に推移したものの、主力商品である「盛田料理酒1L」「盛田醸造みりんタイプ1L」が苦戦したこと等により売上が減少しました。

漬物につきましては、病院給食用のペースト状商品が新規開拓により売上を伸ばし、また「忠勇酒かすで漬けました。」シリーズ(4品)を発売しましたが、市場の縮小及び低価格化の影響等により売上が減少しました。

飲料につきましては、昨秋に新商品で「ハイピースアップルシナモンティー350ml」「ハイピースあずき茶ココナツ350ml」を発売しましたが、既存商品が競合他社との価格競争で苦戦したことに加え、PB商品の落ち込み等により売上が減少しました。

酒類につきましては、清酒は、主力商品の「尾張常滑郷の鬼ころし2L」「尾張男山2L」等の経済酒において、販売価格条件の見直し(抑制)をしたこと等により売上が減少しました。清酒以外では、「盛田蔵出し 本みりん1.8L」が新規顧客開拓等により売上が大きく伸びました。

この結果、当事業の売上高は7,441百万円(前年同期比5.2%減)、セグメント利益(営業利益)は45百万円(前年同期比82.5%減)となりました。

#### (輸入食品類・酒類販売事業)

業務用食材につきましては、米国産キャビアや和食用加工専門店への鴨肉販売の増加、問屋取引の強化及び婚礼場の開拓等により売上が大きく増加しました。また、前期から導入しましたスペイン産高級ハム、仔豚及び冷凍水産品の売上也着実に成長しております。

製菓用食材につきましては、コンビニエンス用スイーツ市場へのクリームチーズ販売拡大を目的にした大手洋菓子製造会社の開拓件数は増加しましたが、大手コンビニエンスでの使用量の減少により苦戦しました。また、洋菓子専門店用のフランス産プレミアムチョコレートを導入し、積極的な販促活動を開始しました。

小売用商品につきましては、主力商品であるボンヌママブランドのジャムは、大手卸店との取組強化により取引店舗数を伸ばしました。また、フランス産「ラ・ペルーシュ」の角砂糖に対して、認知度を高めるために100gパッケージ及びお徳用750gの販促活動を継続して行い売上が増加しました。

ワイン類につきましては、主力商品である「ボランジェ」「シャンソン」「アヤラ」は、販売経路の拡大を行い好調に推移しました。中低価格帯商品は、イタリア、スペイン及びチリワインが安定的に市場に受け入れられ売上が増加しました。

この結果、当事業の売上高は5,479百万円(前年同期比5.7%増)、セグメント利益(営業利益)は111百万円(前年同期比67.5%減)となりました。

#### (水産品加工販売事業)

㈱イメックスにつきましては、婚礼場向けオリジナル加工品やアワビの販売が好調に推移しましたが、高級外食市場の低迷等を受け、主力商品のラングステイヌや魚フィレの販売が減少したことにより売上が減少しました。

㈱ブルーゲイツにつきましては、冷凍水産食材の販売を中心に事業を展開してきましたが、当社グループ間での十分なシナジー実現が困難であるため、事業ポートフォリオの見直しを行い、平成25年2月に当社保有の全株式を譲渡いたしました。

この結果、当事業の売上高は425百万円(前年同期比28.1%減)、セグメント損失(営業損失)は4百万円(前年同期は16百万円の営業利益)となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の流動資産は、現金及び預金が31百万円増加し、受取手形及び売掛金が513百万円減少したこと等から、前連結会計年度末に比べ540百万円減少し12,934百万円となりました。固定資産は、有形固定資産が191百万円増加し、無形固定資産が124百万円、投資その他の資産が109百万円減少したこと等から、前連結会計年度末に比べ42百万円減少し15,711百万円となりました。その結果、総資産は前連結会計年度末に比べ557百万円減少し28,682百万円となりました。

当第2四半期連結会計期間末の流動負債は、支払手形及び買掛金が178百万円増加し、1年内償還予定の社債が1,000百万円、短期借入金が256百万円減少したこと等から、前連結会計年度末に比べ1,169百万円減少し17,261百万円となりました。固定負債は、社債が1,077百万円増加し、長期借入金が239百万円減少したこと等から、前連結会計年度末に比べ832百万円増加し3,760百万円となりました。

当第2四半期連結会計期間末の純資産合計は、四半期純損失266百万円により利益剰余金が減少したこと等から、前連結会計年度末に比べ219百万円の減少となり7,660百万円となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ、31百万円増加し1,994百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローは次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フローは、減価償却費が236百万円、貸倒引当金の増加額が327百万円及び売上債権の減少額が361百万円であったこと等により875百万円の収入となりました。なお、前年同四半期連結累計期間と比べては、売上債権が減少したものの税金等調整前四半期純損失となったこと等により261百万円の収入減少となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出等により374百万円の支出となりました。なお、前年同四半期連結累計期間と比べて、敷金及び保証金の回収による収入は増加したものの、有形固定資産の取得による支出が増加したこと等により239百万円の支出増加となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金の返済（純額）及び長期借入金の返済等により478百万円の支出となりました。なお、前年同四半期連結累計期間と比べては、長期借入れによる収入が減少したこと等により297百万円の支出増加となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

連結業績予想につきましては、平成24年11月9日に公表いたしました通期の業績予想を修正しております。

詳細につきましては、本日別途開示しております「平成25年9月期第2四半期累計期間業績予想との差異及び通期業績予想の修正並びに営業外費用及び特別利益の計上に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

#### (会計方針の変更)

従来、販売費及び一般管理費に計上していた販売促進費の一部について、第1四半期連結会計期間より、売上高から控除する方法(純額表示)に変更いたしました。

当該会計処理の変更は、会計制度委員会研究報告第13号「我が国の収益認識に関する研究報告(中間報告)」の公表を契機として、リベートの性格などを再検討した結果、販売促進費の一部は販売価額の減額、売上代金の返金という性格を有すると考えられることから、経営成績をより適切に表示するために行ったものであります。

当該会計方針の変更は遡及適用され、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度については遡及適用後の四半期連結財務諸表及び連結財務諸表となっております。

この結果、遡及適用を行う前と比べて、前第2四半期連結累計期間の売上高、販売費及び一般管理費はそれぞれ1,181百万円減少しておりますが、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益への影響はありません。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,995	2,027
受取手形及び売掛金	5,786	5,273
商品及び製品	2,802	2,694
仕掛品	1,746	1,860
原材料及び貯蔵品	649	599
その他	516	515
貸倒引当金	△22	△35
流動資産合計	13,474	12,934
固定資産		
有形固定資産		
土地	7,030	7,040
その他(純額)	3,526	3,708
有形固定資産合計	10,557	10,749
無形固定資産		
のれん	3,570	3,430
その他	359	376
無形固定資産合計	3,930	3,806
投資その他の資産		
その他	1,545	1,747
貸倒引当金	△279	△591
投資その他の資産合計	1,265	1,155
固定資産合計	15,753	15,711
繰延資産	10	36
資産合計	29,239	28,682



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,422	2,601
短期借入金	12,426	12,169
1年内返済予定の長期借入金	489	485
1年内償還予定の社債	1,044	44
未払法人税等	110	52
賞与引当金	111	149
その他	1,825	1,757
流動負債合計	18,431	17,261
固定負債		
社債	142	1,220
長期借入金	1,833	1,593
退職給付引当金	317	270
その他	633	675
固定負債合計	2,928	3,760
負債合計	21,359	21,021
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,773	2,773
資本剰余金	7,719	7,719
利益剰余金	△2,219	△2,485
自己株式	△376	△376
株主資本合計	7,897	7,631
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△5	0
繰延ヘッジ損益	△23	23
為替換算調整勘定	10	4
その他の包括利益累計額合計	△17	29
純資産合計	7,879	7,660
負債純資産合計	29,239	28,682

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 四半期連結損益計算書  
 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年10月1日 至平成24年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成25年3月31日)
売上高	13,652	13,361
売上原価	9,616	9,536
売上総利益	4,035	3,825
販売費及び一般管理費	3,546	3,501
営業利益	488	324
営業外収益		
受取利息	6	6
受取配当金	0	1
為替差益	36	22
持分法による投資利益	6	10
その他	27	38
営業外収益合計	78	79
営業外費用		
支払利息	209	208
貸倒引当金繰入額	—	305
その他	38	37
営業外費用合計	247	550
経常利益又は経常損失(△)	319	△147
特別利益		
投資有価証券売却益	24	82
特別利益合計	24	82
特別損失		
減損損失	55	—
事業再編損	0	71
その他	10	2
特別損失合計	67	74
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	276	△139
法人税、住民税及び事業税	149	40
法人税等調整額	107	86
法人税等合計	257	126
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	19	△266
少数株主利益	—	—
四半期純利益又は四半期純損失(△)	19	△266

四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年10月1日 至平成24年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成25年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	19	△266
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5	6
繰延ヘッジ損益	171	47
為替換算調整勘定	△2	△5
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	△0
その他の包括利益合計	174	46
四半期包括利益	193	△219
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	193	△219
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年10月1日 至平成24年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成25年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	276	△139
減価償却費	236	236
減損損失	55	—
のれん償却額	154	140
貸倒引当金の増減額(△は減少)	67	327
賞与引当金の増減額(△は減少)	52	38
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△51	△47
持分法による投資損益(△は益)	△6	△10
受取利息及び受取配当金	△7	△7
支払利息	209	208
投資有価証券売却損益(△は益)	△24	△82
売上債権の増減額(△は増加)	△306	361
たな卸資産の増減額(△は増加)	187	20
前渡金の増減額(△は増加)	47	△45
仕入債務の増減額(△は減少)	234	167
その他	258	2
小計	1,384	1,169
利息及び配当金の受取額	7	5
利息の支払額	△209	△205
法人税等の支払額	△45	△94
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,137	875
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
貸付金の回収による収入	15	15
投資有価証券の取得による支出	△1	△1
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	△10	△4
子会社の清算による収入	64	—
有形固定資産の取得による支出	△161	△371
無形固定資産の取得による支出	△41	△31
敷金及び保証金の差入による支出	△4	△29
敷金及び保証金の回収による収入	5	62
その他	0	△12
投資活動によるキャッシュ・フロー	△134	△374

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年10月1日 至平成24年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成25年3月31日)
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△399	△256
長期借入れによる収入	440	—
長期借入金の返済による支出	△182	△244
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△15	△22
社債の発行による収入	—	1,067
社債の償還による支出	△22	△1,022
配当金の支払額	△0	—
その他	△0	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△181	△478
現金及び現金同等物に係る換算差額	5	9
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	827	31
現金及び現金同等物の期首残高	1,268	1,962
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,095	1,994

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。